

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271401772		
法人名	有限会社グループホーム梅の木		
事業所名	有限会社グループホーム梅の木		
所在地	長崎県南島原市深江町乙1452番地		
自己評価作成日	令和5年10月28日	評価結果市町村受理日	令和5年12月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	令和5年12月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

第一に個人個人が自立した環境で他の利用者との関わりや、自己だけの時間を設けられるような環境を整えている。おやつや食事などコミュニケーションが必ずとれる環境を合計5回は1日にとっている。そして、全室個室とし、ゆっくりと休める環境を整え、その方に合った自室にし、自立出来るような環境の提供に努めている。また、毎日の清掃により清潔を保ち健康に暮らせるような環境の提供に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

明るい日差しが差し込む食堂は入居者が車椅子でも移動の妨げとならないよう空間を広く整備されている。共用空間には臭気や空気のおよみは無く、清潔で、季節に応じた装飾や思い出の写真を掲示していつでも入居者が眺められるようにしている。居室は整理整頓され、好天時には必ず布団の天日干しを行っている。また、居室にはエアマットを使用し褥瘡予防に重点的に取り組んでいる。施設長・副施設長・看護師の自宅がホームの敷地に隣接しており、有事の際に迅速な態勢を整えている。オムツは2~3時間ごとに交換し、排泄があった方にはすぐに交換し、レンジで温めたタオルで清拭を行い、入居者の清潔保持に繋げている。換気と清掃の徹底に取り組んでいることで感染症が広がったことがないことから、今後も入居者にとって健康で安心できる支援に期待が持てるホームと言える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット名 1

自己	外部	項目	自己評価	1	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲示し、個人の人格を尊重しつつ生活支援に「心がけ、真心のサービスを提供し理念に沿ったケア提供が出来るように日々取り組んでいる。	理念である「人格尊重、真心でサービス提供、健康で長生き人生、自由で伸び伸び人生」を事務所に掲示し周知を図っている。職員は「真心」のサービスを意識し、日々の実践に努めている。	あらためて理念について職員周知を図り、目標を設定するなど、職員にとって日々の実践が理念に基づいたものになるよう取り組むことを期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナの為実施が難しい為落ち着いたら地域の方と交流をはかっていきたい。	山の寺自治会に加入しているがコロナ禍により地域との関わりは少ない。以前は老人クラブ、消防団員等が敬老会に参加していた。管理者が地域清掃に参加し、地域住民と交流している。今後は地域交流を再開する意向である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	相談等には気軽に応じるよう心がけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議内容を職員に周知徹底し、家族と共有して運営や適切な介護に反映するように努めている。	運営推進会議は書面会議にて実施している。家族代表、町内会代表、地域包括支援センター職員、外部有識者、ホーム代表、計画作成担当者で構成している。入居者の状態をインシャルで表記し説明している。ホームの情報や行事報告を行い、各委員へ書面を送付している。	運営推進会議を書面会議で実施する場合でも可能な限り双方向の会議が求められており、今後、書面によるホーム情報提供と共に構成委員からの質問や意見を収集するための書面を同封するなど工夫することが望ましい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村との連携を密に行いサービス向上に努めている。	ホーム代表の変更や介護保険関係、市へのストーマ装具の申請等、管理者が行政等関係機関の担当者と連絡・相談し、サービス向上に向けて取り組んでいる。南島原市の生活保護課担当者とも協力関係を築き連携している。	

自己	外部	項目	自己評価	1	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わないようにしっかりと利用者と話しどのような事が考えられるか共に考える。身体抑制をしないといけないような人が居るときはどうしたら身体抑制しないでもいいか職員同士で話し合いをおこない、訪室回数を増やすなど取り組んでいる。	訪問調査日において身体拘束が必要な入居者はいない。3月に1回、身体拘束・虐待防止の勉強会を開催している。必要に応じて外部講師を招いて勉強会を行い、職員の学びと意識向上に繋げている。	今後、運営規程に「虐待の防止のための措置に関する事項」を記載し職員に周知すると共に家族へ説明して取り組むことを期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員一人が利用者を見るのではなく、担当を変えて利用者を見ていく。利用者の異常があると情報共有してすぐに対応するような体制をとっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度に対しては学ぶ機会を設けていないが、職員同士や管理者も交え話すことがある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者に対しては不安など日頃のコミュニケーションにて話を行い、家族に対しては電話や実際ホームに来て話をする時間を設けている。不安や疑問等聴ける体制を整えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者・家族などの意見箱を設置し、家族の方が話しやすい環境や職員の雰囲気作りを行っている。	ホームの玄関に意見箱を設置している。家族との面会は感染状況に応じて玄関前で行うなど配慮している。ホームだよりと一緒に入居者個々の家族へ宛てた手紙を送付しており、家族からも好評である。遠方の家族には毎月電話連絡を行い入居者の状況を伝え、家族の意向を確認している。	入居時の重要事項説明書において第三者(外部)評価の受審状況が分かるように、第三者(外部)評価実施の有無、評価実施日、評価機関名、評価結果の開示状況を記載するとともに、説明時には評価受審に合わせて家族アンケートを実施し家族の意見をくみ取る機会となる旨を説明して運営に活かすことを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	1	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員と話す時間を設け、毎日声かけや利用者についての会話のほか困っていることや趣味・世間話などもはなし、話しやすい環境作りに励んでいる。	今年度に2名の職員が認知症介護基礎研修を受講する予定である。毎月の職員会議では職員が話しやすい雰囲気留意しながら職員の意見を聞く機会を設けている。職員のアイデアは積極的に運営に取り入れるよう努めている。職員の希望休の意向を踏まえ、柔軟に調整し勤務表を作成している。	職員の働く意欲の向上や質の確保に繋がれるようハラスメントに関する研修などを通して理解を深めると共に、基本方針、マニュアル作成、相談対応窓口の設置等、今後具体的に取り組むことを期待する。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の体調や職員の家族のことなども把握し、一人の人に業務が偏っていないか把握している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員にも研修など勧め、利用者のケア・処置など実際に自己にて実践して共に行うようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	勉強会など職員同士で話し合い上記に書いてるようにケア・処置など自己が実践して統一した対応を出来るようにしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	毎日挨拶をしっかりと行い、一人一人に声かけを行い、しっかりと一日コミュニケーションをとっている。食事やおやつの際にはコミュニケーションを図る機会を設けている		

自己	外部	項目	自己評価	1	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	コロナやインフルエンザがあり面会出来ない ので電話や手紙・写真等にて利用者のことが 把握できるよう少しでも不安が無くなるような 対応を実施している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その 時」まず必要としている支援を見極め、他の サービス利用も含めた対応に努めている	不安なことや聞かれたことに対してわかりや すく説明し、理解できたか確認を行いつつ適 宜対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、 暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事やおやつの時間に話す時間を設けコミュ ニケーションを図っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支 えていく関係を築いている	利用者と家族の関係をしっかりと把握し、面 会の際にも利用者と家族が話せる時間を設 け日常の利用者のことなどを伝えて日頃の事 も知って頂けるよう支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場 所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の住んでいたところの話や親戚の方と の網戸越しにての面会など行い。電話で話し たり、病院受診の際など風景を見たりして大 切な思い出など途切れないよう支援してい る。	コロナ禍以前は入居者の友人や知人が訪ねて 来た際にフロアや居室で会話ができるよう支援し ていた。年賀状や手紙を送ってくる家族や、電話で 会話するなど関係が途切れないよう支援してい る。	

自己	外部	項目	自己評価	1	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	おやつ時間・食事の時間などコミュニケーションの場を設け職員は全員が話しに入れるような話題の展開を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が途切れても相談などあれば対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者が過しやすいような環境とし本人がどうしたいかを優先的に考え、行動して頂くようにしている。危ないときなどに職員が手を差し伸べられる環境作りを励んでいる。	難聴の方や発語が難しい方には、その状態を記録に残すと共に家族にも相談しながら支援している。必要に応じて筆談したり単語で示すなど試行錯誤しながら検討し本人本位の支援ができるよう取り組んでいる。支援記録は家族にも示し家族の安心へと繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や利用者これまでの暮らしについて聞き、なじみのある暮らしに近づけるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の日中・夜間の状況をカルテに記入し、現在どのような状況か職員全員が把握出来る環境を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	1	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者がよりよく暮らすためには利用者の意見を中心に考え職員のアイデアを生かし運動等行って居る。介護計画の作成も適宜見直しを行い対応している。	職員との日々の話し合いと提案を通じ、入居者や家族の希望や意向等を踏まえて具体的な目標設定、介護計画の立案を行っている。介護計画立案時のほか見直しや計画変更時には家族に説明し同意と署名を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カルテにバイタルサイン・排便・排尿状況・病院受診記録・一日の利用者の様子を記載しスタッフ全員が把握出来るようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者・家族などの意見を取り入れたり、もし他のサービスなど気になる際にはこちらから提供し対応していくよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の活用はなかなか出来ていないが、この評価を行って頂くに当たり、貴社でももっと地域資源の活用を努めていきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医はその利用者に寄り添い希望を尊重しつつ、毎回の受診で異常があればすぐに家族に相談し対応している。	受診時に1か月分の入居者のバイタルなど健康状況を記載した記録を持参し、円滑な医療に繋げている。専門医療機関を受診する方には受診後に職員が家族へ状況を伝えている。歯科医との連携も図り適切な受診支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	1	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホームに看護師在住のため、スタッフとケアについて話し、情報共有をほぼ毎日実施している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院先の医療ソーシャルワーカーとこまめに連絡を取り早期退院や安心して治療を受けられるように日常で使用していた物など持って行き帰ってきやすい場を提供出来るように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けては家族との時間を大切に頂き、利用者がしたいことなど要望に応えられるように努めている。	入居時に看取り支援の方針を入居者及び家族に説明し同意を得ている。看取りに関する指針を整備し、主治医とも話し合いながら支援方法を検討している。褥瘡予防としてエアマットを導入して支援している。家族の意向を大切にしながら、透析、ストーマ、酸素、胃瘻、点滴などの医療的ケアが必要な場合は医療機関と連携して支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練など定期的に行えていないため、今後勉強会など開催し知識を深めていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	避難訓練を年に2回開催し、反省会など行い全職員でどのように行ったらいいのかなど話し合い対策している。	年2回、初期消火・通報・避難誘導の訓練を実施し、運営推進会議で報告している。施設長・副施設長・看護師の自宅がホームの敷地に隣接しており、有事の際に迅速な態勢を整えている。避難誘導担当を変更することであらゆる災害に臨機応変に対応できるよう実践的に訓練している。	感染症や自然災害に関するBCP(業務継続計画)の策定が未整備の状況にある。今後、BCPの策定と共にBCPIに沿った研修、訓練(シミュレーション)の実施を期待する。また、備蓄品に関し一覧表を整備しているが、賞味・消費期限を明確にして管理すると共に水などの備蓄は充実を図ることが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	1	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の生活リズムを把握し、全室個室となっているため一人の時間なども大切に出来る環境作りを行っている。	職員は方言を用いて馴染みのある言葉で接し、呼称は「さん」付けで呼んでいる。排泄介助や入浴介助を行う際は不適切なケアに繋がらないよう留意し、入居者のプライバシーや羞恥心に配慮している。管理者は入居者が人生の大先輩であることを職員へ意識付けを図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	おやつや食事の時間・テレビ鑑賞の時間を設け、その際にコミュニケーションを図り聞き出している。また、オムツ交換の際にも話しやすい環境作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の生活リズムに沿い、皆で行う事は皆で行うなどメリハリをつけて過している。危険なときなど対応出来るように職員にも周知している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者と共に衣服は選び、定期的にグループホーム内で散髪を行っている。病院受診や外出の際にはおしゃれに気を遣い行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は利用者と朝・昼・夜全員が食堂に集まり一斉に食べている。現在、ホットキッチンを頼っており、おやつなどの時間に事前に利用者の嗜好を聞いて対応している。	食事は外注しているが炊飯はホームで行っている。職員一人が検食し、本人の状態に応じてキザミ・トロミ・ミキサー食を提供し、必要に応じて職員が食事介助を行っている。コーヒーゼリーなどのおやつを作ったり地域で採れた季節の果物を提供している。毎月1日は赤飯や時季の行事食を設けるなど食事が楽しめるよう工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	1	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	現在ホットキッチンを提供しており、栄養バランスはとれている。水分など透析患者さんなど600mlと指示ありその指示に伴い提供している。その他発熱など脱水状態に至りやすい方はスポーツドリンクで対応する事もあり。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝・昼・夜と食事後は必ず口腔ケアを行っている。自己にて実施出来ない方は職員が介助し対応しており、自己にて行える方は行って頂き職員により仕上げ磨きを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄は自己にて車椅子にて行ける方は行って頂き、一日に一度は陰部清拭を実施している。排泄に対して自己にて認識がある方はトイレ誘導し時折職員にて介助を行っている。オムツは2-3時間ごとに交換し、排泄があったといえる方はすぐに交換するよう心掛けている。	「排泄チェックシート」に記録し、入居者一人ひとりの排泄パターンを把握し、本人の訴えや排泄間隔に合わせて声掛けし、トイレでの排泄誘導を行っている。オムツは2~3時間ごとに交換し、排泄があった方にはすぐに交換し、レンジで温めたタオルで清拭を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘がないか排泄状況のチェックを行い内服でコントロール出来ているかや・出ていない方は水分摂取やの字マッサージを行い排泄管理に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は1週間に2回実施している。その他足浴や手浴は利用者のタイミングにて行っている。入浴の時にはコーヒーを3時に提供しその楽しみも共に楽しんで頂いている。	週2回、火・土曜の午後からの入浴を基本として支援している。本人の意向や必要があれば入浴日以外も入浴ができるよう配慮している。入浴を拒否する方には時間や言葉かけを変更しながら対応している。12月にはゆず湯を行うなど入浴を楽しめる工夫を行っている。入浴ができない場合には足浴や清拭にて清潔面を考慮し対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	1	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人のタイミングにて休息して頂くようにしている。季節に合わせて布団など変更し対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	何を服用しているのか把握を行い、次回の受診の際に主治医にその変化や薬についても話せるようにしている。バイタルサイン・排便状況などと合わせて考えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事にて季節感・飾り付けなどで季節感を出し、部屋の飾り付けなども利用者と一緒に楽しみながらすることあり。今後も活かせるようにしていきたい。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望に添い外出出来るようにしており、お庭にて歌を歌ったり行っている。現在はコロナ・インフルエンザがあり家族や地域の人と係わる機会が減ってるので係わるような支援をしていきたい。	感染症防止のため積極的な外出を控えているが、入居者がホームの周辺を散歩し庭に咲く花木を眺め外気浴を楽しめるよう支援している。また、病院受診の帰りに、墓参りや本人の自宅を見に行くなど個別の支援をできる範囲で継続している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金はグループホームにて利用者は持っていない。金銭面は家族に任せている。		

自己	外部	項目	自己評価	1	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者から電話をしたいという要望には応えるように努めている。手紙など自己にてかけない方は何を伝えたいか傾聴しなるべく家族に利用者の声が届くように対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同の空間・部屋などは毎日掃除を行い綺麗に保つようにし、事故がないような空間を維持している。また、季節感が分かるような飾り付けなども利用者と楽しみながら作成し飾っている。	明るい日差しが差し込む食堂は入居者が車椅子でも移動の妨げとならないよう空間を広く取っている。共用空間には臭気や空気のおよみは無く、清潔で、季節に応じた装飾や思い出の写真を掲示していつでも眺められるようにしている。室温や湿度にも配慮し、入居者が居心地良く過ごせるよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同空間でも仲の良い方や一人に慣れる場所の提供に努めている。利用者一人一人にあった生活が行えるように努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地が良く清潔に過ごせるようにクローゼットなどは常に綺麗にし保っている。孫の写真などを飾ったり、家族からのプレゼントなどを飾ったりし利用者にあつた空間の提供に努めている。	居室は整頓され、好天時には必ず布団を天日干しを行っている。全居室のベッドにはエアマットを使用し、褥瘡予防に取り組んでいる。家族の写真や位牌等を持ち込む入居者もあり、入居後も穏やかに過ごせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人に合った部屋を選び、トイレがある部屋やポータブルトイレを設置し自己にあつた生活が行えるようにして居る。自立した生活が行えるように時計を設置したりし時間に対しても意識出来るような環境の提供に努めて居る。		